

# ANNUAL REPORT

## 年次報告書 2022

令和4年度 2022.4.1～2023.3.31



ごあいさつ 理事長 黒川 光隆 …… 1

### I 動物福祉活動 …… 2～6

- 動物虐待防止への対応
- 環境省統計から
- JAWSUKについて
- 「動物との共生を考える連絡会」の幹事団体としての活動
- 要望書等提出
- 他団体との協働
- 学術ネットワーク
- 日本獣医生命科学大学との共同研究〈日本における動物園の実態調査結果概要〉
- 動物ID普及推進会議(AIPO)
- 犬・猫の不妊去勢手術の推進
- 譲渡動物の紹介

### II 広報・啓発活動 …… 7～9

- 第63回 動物愛護の作文コンテスト
- 岡本和真HAPPY ANIMALプロジェクト
- 動物愛護週間中央行事
- JAWS REPORT
- 譲渡会の開催
- セミナー・研修会・講演・学会・取材等

### III 募金活動 …… 10～11

- 常陸宮妃華子殿下のご翻訳絵本とデザインカード
- 各種オリジナルグッズの販売等
- 会費・ご寄付の支払いが多様化されました
- 寄付金
- 税制優遇措置について

### IV 会員募集活動 …… 11

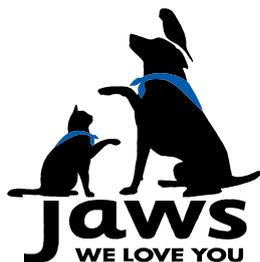
### V 事務局関係 …… 11

- 定時会員総会

### VI 各支部の活動報告 …… 12～16

- 栃木支部
- 新東京支部
- 横浜支部
- 長野支部
- 南大阪支部

### VII 財務状況 …… 17



公益社団法人 日本動物福祉協会

Japan Animal Welfare Society

表紙  
写真

作文コンテスト授賞式(上)  
譲渡会での岡本和真選手  
(報知新聞社写真部提供)(中)  
RSPCAセミナー(中)  
長野県での多頭飼育崩壊対応(下)

# 動物を虐待から守り、 すべての命にやさしい社会を築いていくために。

会員区分	会費	入会要件
法人会員(CJ)	年額(1口) 50,000円	年額・1口以上 正会員2名の推薦を要する
維持会員(S)	年額 7,000円	正会員2名の推薦を要する
賛助会員(A)	年額 3,000円	
青少年会員(J)	年額 1,000円	20歳未満

※年会費は、毎年4月から翌年3月迄の1年間の会費となります。

(令和5年3月末現在)

## 名誉総裁

常陸宮妃殿下

## 役員

理事長 黒川 光隆  
副理事長 安田 雄典  
理事 加藤 笑子  
理事 伊藤 美子  
理事 服部 真二  
理事 井上 多賀子  
理事 緒方 延泰  
理事 飯塚 修  
理事 堀田 雅子  
理事 水原 牧子  
理事 岡橋 輝和  
理事 猪股 智夫  
理事 小山 秀一  
監事 高橋 直人  
監事 臼杵 善郎

## 海外姉妹団体

日本動物福祉協会英国  
理事長 A.Crittenden

## 事務局

事務局長 宇野 治  
管理部長 竹内 敏信  
獣医師・調査員 町屋 奈  
調査員 櫻井 彩香  
事務員 小犬丸 千寿美  
事務員 林 千尋

## 顧問

佐良 直美  
倉林 恵太郎  
池本 卯典  
浅利 昌男  
山崎 恵子  
山口 千津子  
安田 信



# ごあいさつ

TOP MESSAGE

## 令和4年度(2022年度)の活動状況報告

会員及び当協会をご支援くださる皆様には、益々ご壮健にてご活躍のことと拝察、お慶び申し上げますと同時に、当協会の動物福祉事業に対する、常日頃の温かいご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

2022年度は、新型コロナウイルス変異株の出現により感染者数は急増し、野外活動の制約により、当協会の活動は一部停滞を余儀なくされました。その中にあっても地方においては、多頭猫飼育崩壊や動物虐待事案が多発し、人獣ワンヘルス・ワンウェルフェアの観点から、現地行政と連携し、多頭飼育崩壊現場における人の福祉と動物の福祉を一体として支援するプロジェクトに積極的に参加してまいりました。

当協会の動物福祉事業のもう一つの大きな柱であります不妊・去勢手術の助成事業ですが、2022年度は、福島県、長崎県の2県を対象に1,600頭余りの助成を実施いたしました。また、当年度も野良猫を対象にした「JAWSのら猫キャンペーン」において200頭余りを、さらに支部における実施分を合わせると協会全体では3,300頭余りの手術助成を実施することができました。

他方、啓発活動といたしましては、新型コロナウイルス感染を避けるべくセミナーのオンライン化を推進し、全国における視聴者ベースを拡充いたしました。また、収容された動物の適切な飼養管理を取扱う「シェルター・メディスン・セミナー」をハイブリッドで開催し、強い要望により見逃し配信を実施いたしました。さらに、動物虐待を科学的に診断できる獣医師を育成することを目的に「法獣医学研修会」を開催したほか、一般市民を対象に「動物福祉市民講

座」をオンライン配信し、総視聴回数は延5千回に及びました。また、日本獣医生命科学大学と共同で「シェルター・メディスン社会連携講座」を開設し、将来を担う若い動物医療専門家・関係者に対し動物福祉の概念を浸透させました。

また、恒例の「動物愛護の作文コンテスト」も第63回を数え、小・中学生の皆さんから1,251編もの応募をいただきました。若い世代の動物福祉活動への関心を高めることは、私共の重要な課題であり責務と考えており、更に充実させていくべきイベントとして位置付けております。

当協会の活動は、全て皆様からの会費と一般の方々や企業の社会貢献としてのご寄付によって支えられております。また、前年度からは読売巨人軍「岡本和真ハピアニプロジェクト」を通じ、岡本選手に当協会の動物福祉活動を支援していただいております。当協会といたしましては、いただきました資金を基に、引き続き日本の動物福祉の質向上に資するべく、鋭意尽力いたす所存でございますので、今後とも宜しくご理解、ご支援の程をお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご活躍をお祈りしつつ、2022年度の活動状況をご報告いたします。



理事長 黒川 光隆

## 動物虐待防止への対応

令和4年度に、警察が動物を虐待したなどとして動物の愛護及び管理に関する法律(以下動愛法)第44条違反容疑で摘発した件数は166件でした。170件と過去最多だった前年とほぼ横ばいでした。被虐待動物は、猫が91件、犬が53件の他、馬、ウサギなどのエキゾチック動物やコツメカワウソなども報告されています。虐待内容別では、遺棄が74件、ネグレクトが49件、殺傷が43件でした。動物虐待の摘発が高止まりしている背景として、令和元年の動愛法の改正により、動物虐待等の罰則が強化されたことや社会的な意識の高まりがあると考えられます。

しかし、警察による摘発が増えても、検察庁の判断で不起訴になる事件も多く、例え起訴されたとしても実刑となることはほとんどありません。今後、司法による判断が厳しくなっていくことが犯罪の抑止のためにも必要不可欠なことだと考えます。

また、令和4年6月からブリーダーやペットショップ等で販売される犬や猫について、マイクロチップの装着が義務化されましたが、それに伴い、ブリーダーによる無資格で犬にマイクロチップを挿入した獣医師法違反事件も発生しています。以前から、動物取扱業者による無資格でのワクチン接種など獣医師法違反行為は問題となっています。動物の健康を害する危険性のある行為であるため、こういった問題にも積極的な摘発が望まれます。

一方で厳罰化により、動物虐待をする人を罰する機会が増えても、所有権により、虐待を受けた動物を救助保護することが難しいことが大きな問題として残っています。そのため、被虐待動物を速やかに保護できる法整備が急務ですので、次回法改正には緊急保護ができるように提言していきたいと考えております。

近年、第一種動物取扱業者による大規模な動物虐待事件が続いています。主な事件では、前年度、長野県松本市繁殖業者が約1,000頭の犬猫を虐待した罪で逮捕、その後起訴された事件や当年度の大阪府寝屋川市繁殖業者や東京都八王子市元繁殖業者が小型犬及び甲斐犬を虐待した罪で逮捕された事件などあります。これらの事件に共通しているのが、管轄自治体による立入り・指導が数十回以上も実施されていたことです。その期間は数年にも及んだケースもあり、その間も、犬猫が不必要な苦痛を受け続けたり、死亡したりして

います。自治体は業者に対して業務停止や登録取り消しの命令を出せる権限をっていますが、これらの事件のように業の登録取り消し要件に該当しているにもかかわらず、厳しい対応をできずに事態を悪化させている現状があります。全国的にみても、2017年度から21年度の5年間、行政処分が出されたのはわずか5件しかありません。実際、松本市や寝屋川市の事件では、業者が逮捕され廃業届を提出するまで、管轄自治体から登録の取り消しは行われませんでした。

また、虐待事件では、虐待された動物を一時保護する場所の確保が必要になることが多々あります。その際、警察から行政保管施設での保管を打診されても断られるケースが当年度も報告されています。所有権の問題で慎重に対応せざるを得ないことは理解できますが、環境省作成の「動物虐待等に関する対応ガイドライン」で、警察が押収した動物の一時保管を依頼された場合は動物愛護センター等が協力することと明記されています。また、所有権を放棄された犬猫についても可能な限り動物愛護センター等での引取りを検討すると記載されているにもかかわらず、これらの内容を実行している行政は少なく、そのしわ寄せが保護施設を持つ民間団体に及んでいます。複数の民間団体が介入した場合、トラブルに発展することも多いため、行政施設で保管せず、民間団体に依頼する際にも、自治体がしっかりとイニシアティブをとっていく必要があると考えています。動物愛護管理行政には、虐待事件を他人事とせず積極的に介入・協力していく姿勢を示してほしいと思っています。

長野県は、松本市の事件の反省から、「不利益処分等実施要領」及び「運用通知」を作成しております。長野県職員の方が、「動物の健康・安全を守るのは私たちであることを肝に銘じて、できない理由を並べるのではなく、できる方法を考え抜き動物の健康及び安全を守ることが大切」と述べられていました。全国の動物愛護管理行政職員がこのような信念で対応していけば犠牲となる動物が減っていくのではないのでしょうか。

第二種動物取扱業者の相談や虐待事件も多くなっています。神奈川県藤沢市にある動物保護施設では、しつけと称した暴力行為をしていたとし、当年度末に動物虐待の罪で起訴されています。この団体は、駅前で炎天下に犬を連れて募金活動をしていたことに批判の声が多くあがっていましたが、多くの募金を得ていたようです。このように、人の善意を利用した保護団

体・企業等は残念ながら増えてきています。譲渡の際、高額な譲渡費用や寄付金を請求したり、第一種動物取扱業者では禁止されているインターネット上のみの取引がおこなわれ、トラブルに発展しています。一部の動物保護団体・企業は、ペット競り市場やペットショップの売れ残りやブリーダーの引退犬猫の受け皿となっており、引取り(販売)業者のようなことをしています。このようなグレーゾーンにいる業者は、第一種のような厳しい規制も受けず、人の善意を利用して金儲けをしています。そのため、非営利で不幸な動物のために真剣に動物保護活動に取り組んでいる団体等との法的な線引きは今後必要不可欠であると考えています。

虐待を受ける動物は犬猫など家庭動物だけではありません。展示野生動物の相談も後を絶ちません。当年度は、以前から多くの相談があった宮城県蔵王キツネ村に6月、10月と1月に視察を実施しました。ここでは、多くの不適切な飼養管理が確認されました。不適切な飼養管理が改善なく長期化した場合は、動物虐待となります。そのため、その後管轄自治体である宮城県に報告書及び改善要望書を送付しました。



↑ 頭部に怪我をし、顔面が腫れている



↑ 喧嘩の様子



↑ 檻の中は不衛生で不適切な環境

現在、環境省は、犬猫以外の動物の飼養管理基準の作成に取り組んでいます。しかし、多種多様な動物種がいる日本で、全種を網羅することは不可能です。そのため、どの動物種にも共通する事項の作成と応用(対応)できる記述が必須であると考えています。

移動販売による幼齢個体への過度な負担及び消費者トラブルは深刻です。イベント会場や輸送に使われるトラックなどが飼養施設として登録されているケースが多く、果たして、会場やトラックで飼養管理基準を遵守した飼養施設を設置できるのか、また、到着後2日間以上の観察は本当に実施されているのかなどを考えると、なぜ登録が認められるのか疑問に感じることが多々あります。また、幼齢個体への輸送ストレスは甚大であり、実際販売される動物の状態が日を追うごとに悪くなっているとの報告もあります。移動販売については、法改正の度に禁止を訴えてきており、次回法改正では実現したいと考えています。

当年度も、一般の飼い主による虐待の相談が相次ぎました。劣悪多頭飼育問題は、地域によっては、人の福祉局は積極的でも動物愛護管理行政が消極的又は全く動かないケースも報告されています。動愛法25条では、不適切な飼養等をしている一般飼い主への動物愛護管理行政の立ち入りと指導ができることになっています。虐待にエスカレートさせないためにも、ここでも動物愛護管理行政の対応が鍵となります。

産業動物の福祉については、国としてもアニマルウェルフェアは重要課題として取り組んでいるところです。特に採卵鶏の飼養管理については、国際獣疫事務局(OIE)でも「アニマルウェルフェアと採卵鶏生産システム」の議論が最終段階を迎えています。採卵鶏の飼養形式の一つであるバタリーケージは、EUではすでに禁止になっているほか、アジアでも禁止にする国が増えてきました。日本では、90%以上が多頭過密飼育のバタリーケージであり、それが安価な卵を支えてきました。しかし、当年度のように、一度、(高病原性)鳥インフルエンザがバタリーケージに侵入した場合、蔓延しやすいという問題が浮き彫りとなりました。また、バタリーケージは採卵鶏の福祉も著しく侵害している飼養方法です。日本も、先進国の一員として、バタリーケージの禁止を打ち出す時期にきていると思います。その際、EUがバタリーケージ禁止の宣言から実質12年かけて禁止としたように、同様の期間を設け、生産者への負担を考慮する必要はあると考えています。そして、スーパーなどで卵を販売するパックに、採卵鶏の飼養形式の明記を義務づけることも大切だと考えています。消費者の多くは、購入して

いる卵がどういった飼養環境で産まれたかまでは知らないことが多いため、パック等に印字してあれば、考えるきっかけになり、産業動物の福祉の向上に繋がっていくと考えています。

## 環境省統計から

環境省の統計資料によりますと、令和3年度(令和3.4.1～令和4.3.31)の全国の犬猫引取り数及び処分数は、引き続き減少しております。返還・譲渡数は引取り数減少に比例して減少していますが、返還・譲渡率も75.8%と過去最高となっています。引取り数の内訳では、前年同様に、猫の幼齢個体が一番多く、犬猫共に、所有者不明による引取りが飼い主からの引取りよりも多くなっています。殺処分数は過去最低となり、殺処分率も25%を切りました。殺処分の理由は、①譲渡することが適切ではない(治癒の見込みがない病気や攻撃性がある等)、②①以外の理由により譲渡又は保管が困難である(高齢、怪我及び病気持ち、施設の収容能力の制限等)、③引取り後に死亡、に3分類し集計されています。犬猫ともに①が最も多く合計6,725頭、次いで②が合計4,180頭となっています。

	引取り数		処分数	
	成熟個体	幼齢個体	返還・譲渡	殺処分
犬	19,229 (22,397)	4,873 (5,238)	21,518 (24,199)	2,739 (4,059)
猫	11,288 (13,919)	23,517 (30,879)	23,112 (25,385)	11,718 (19,705)
合計	30,517 (36,316)	28,390 (36,117)	44,630 (49,584)	14,457 (23,764)

③：幼齢の個体は主に離乳していない個体を示す。( )内は前年実績引取り数の所有者不明の成熟個体には、狂犬病予防法に基づく抑留が含まれる。  
引取り数の所有者不明には、一部、県・市条例に基づく収容を含む。  
殺処分数には、幼齢個体などの保管中の病気等による自然死も含まれる。  
成熟個体と幼齢の個体を区別していない自治体にあつては、成熟個体に計上している。

## JAWSUKについて

当年度も英国の姉妹団体JAWSUKを通じて、国内外に住む海外の方からSNS上の投稿や記事についての相談が7件ありました。海外在住の方からだけでなく、日本在住の外国人の方からのご相談も増えています。

内容は、飼い犬など家庭動物だけでなく、猫島、ニホンザル、イルカそしてミーアキャットなどの問題と多岐にわたりました。

## 「動物との共生を考える連絡会」の幹事団体としての活動

「動物との共生を考える連絡会」(以下連絡会)は、2025年頃に予定される法改正に向け、主な法改正案の作成や関連団体との協議など新たな法整備に向けた活動をしました。



## 要望書等提出

堺市からの依頼で、堺市在住YouTuberの猫虐待動画に対する意見書を作成し提出しました。また、「新たなアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理指針」について農林水産省に意見書と要望書を提出しました。さらに、当協会への相談電話で、笠松競馬場にて馬の致死処分の際、逆性せっけん製剤である「パコマ」を使用し続けているという情報提供があり、事実確認のため岐阜県地方競馬組合にパコマ使用に関する質問状を送付いたしました。

## 他団体との協働

展示野生動物の福祉の向上を目指し、動物園法制定に向けて(公社)日本動物園水族館協会と話し合いをしました。WWFジャパン作成の「エキゾチックペットガイド」に一部助言いたしました。

<https://www.exoticpetguide.org/guide/>

## 学術ネットワーク

専門家による「産業動物の福祉を考える検討会」と「一時緊急保護の必要性を考える検討会」を開催しました。

## 日本獣医生命科学大学との共同研究

前年度より継続しておりました日本獣医生命科学大学との共同研究の最終結果報告です。本研究は、国内では動物園が乱立し集客や利益重視のために動物福祉に反している動物園が非常に多く黙認されている現状

から、根本的な問題を解決するために当協会と日本獣医生命科学大学との共同研究として、日本全国の動物園における動物福祉の実態調査を行ってまいりました。

## 〈日本における動物園の実態調査結果概要〉

### 【背景と目的】

動物園展示動物の多くは飼育下野生動物であり、動物園は全ての動物種がその種本来の行動を発現できるよう動物福祉を考慮して運営する必要がある。しかし、動物園や飼育下野生動物を対象とした条例や規則はなく、日本の動物園における動物福祉は一貫していないと思われる。本研究では、動物園の福祉を健康、栄養、行動、環境、精神の5つの領域から総合的に評価し、国内の動物園における動物福祉の実態把握を目的とした。

### 【材料と方法】

国内の動物園で飼育されている哺乳類、鳥類、爬虫類を対象動物種とした。対象動物園は無作為抽出にて日本動物園水族館協会(JAZA)加盟動物園及び非加盟動物園を選出した。

健康、栄養、行動、環境、精神の5つの領域に関して31の項目を設定し、各動物種を評価した。健康、行動、精神は各項目の平均値を目的変数とし、線形回帰分析により栄養と環境に関する18項目の説明変数との相関性を検討した。また、有意な項目については重回析を行った。

### 【結果】

2020年10月20日から2022年1月19日の期間に訪問した動物園70施設(JAZA加盟40園、非加盟30園)とそこで飼育されている動物種185種についてデータを収集した。健康スコアと有意な相関性のあった項目は、給餌安全性、行動制限、悪臭騒音、環境汚染であり、行動スコアと有意な相関性のあった項目は、環境選択、隠れ場所、種特有行動、悪臭騒音であった。また、精神スコアは6項目と有意な相関性があった。

### 【考察】

精神は他の領域と深い関係性があり、環境は動物福祉に与える影響が大きいと示唆された。また、5つの領域は動物園動物の福祉に関して互いに深く関わり、動物福祉を向上させるためにはいずれの領域も欠如してはならないと考えられる。JAZA加盟動物園と非加盟動物園と比較しても、動物福祉に関する殆どの項目において良好であった。

### 【総括】

国内の動物園において、動物福祉の考慮レベルには顕著な差があり、特に栄養・行動・環境に関する項目において多くの動物園で改善が必要であると思われる。また、動物園展示動物の福祉は5つの領域の関わり合いの中に成り立っており、いずれの項目も十分に考慮することで動物福祉を達成することができる。その中でも特に重要なのは、適切な刺激と十分な選択肢など動物種本来の行動を発現可能な環境や清潔かつ安心して落ち着くことができる環境を提供することである。加えて、負の状態を最小化するだけでは良好な動物福祉を達成することはできず、同時に正の状態を促進することも重要である。より簡便に動物福祉を評価する際は、動物種本来の行動を発現可能な環境や清潔で安心して落ち着くことができる環境であるかどうか判断することが最適であると思われる。

また、動物園の動物福祉には動物園の社会的役割や公的意義、並びに従うべき基準を明確に理解し厳守すること、総括的な知識及び技術を持つことが重要であると示唆される。今後は、国内の動物園がより高い水準で動物福祉を成し得るよう、法整備も含めて動物園の在り方を明確化する必要があると思われる。

## 動物ID普及推進会議

### (AIPO : Animal ID Promotion Organization)

当協会は、3団体で構成する全国動物愛護推進協議会の一員として、AIPOに参加、(公社)日本獣医師会と協力しマイクロチップ(電子標識器具)の普及に尽力しています。2019年の動物愛護管理法改正において、犬猫の販売業者に対しマイクロチップの装着・登録が義務付けられることになり、2022年6月に施行されました。小さなチップに登録された「名札」の役割を担う個体番号は集中管理されていますから、地震等の災害が発生した際には、大切なペットと飼い主を素早く、確実に結び付けることが可能になるなど、力を発揮します。全国各自治体で情報読み取り器(リーダー)が設置されるなど、読み取り体制も整備されてきており、「万が一の事態」に対応可能となっています。当協会では所有する動物が譲渡される場合、必ず、チップを装着して送り出しています。

## 犬・猫の不妊去勢手術の推進

### 《いぬねこ不妊去勢手術推進キャンペーン》

前年に引き続き、本部では第29回「いぬねこ不妊去勢手術推進キャンペーン」を2県対象に行いました。対象県は3年連続の「福島県」と、2年連続の「長野県」で行いました。どちらの県も、引取り数・殺処分ともに非常に多い都道府県となっており、本キャンペーンを行うにあたり非常に多くの反響をいただいていることから、対象県を2県に減らすことで各県の当選枠を増やして実施いたしました。

応募期間は2022年9月1日から10月31日までの2か月間で、応募方法はインターネットまたはハガキから受付をいたしました。当協会のHPから入力するだけで簡単に応募ができる形式となっており、応募者全体の約8割の方がインターネットからご応募をいただいております。インターネットが苦手という方の声もいただきますので、郵便ハガキでの応募もあわせて対応いたしました。

前年度に引き続き、ネットで助成金受取ができるシステムを導入し、ネット受取りは全体の7割の方にご利用いただきました。

助成金制度の利用率(手術済み頭数÷当選頭数×100)は、福島県が74%、長崎県が67%という結果になりました。

### 《いぬねこ不妊去勢手術推進キャンペーン結果》

	当選頭数				手術実施頭数			
	猫(頭)		犬(頭)		猫(頭)		犬(頭)	
	メス	オス	メス	オス	メス	オス	メス	オス
福島県	868	568	21	25	575	488	14	19
長崎県	459	273	62	54	288	215	34	34
合計	1,327	841	83	79	863	703	48	53
	総助成頭数				1,667			

一方、野良猫の不妊・去勢手術費用の一部を助成する「JAWSのら猫キャンペーン」は当年度で7年目となりました。前年に引き続き、全国各地から申請をいただき、不幸な動物を増やさない為の活動を支援させていただきます。

### 《JAWSのら猫キャンペーン結果》

手術実施頭数		
メス(頭)	オス(頭)	合計
165	116	281

各支部でも、不幸な犬や猫を1匹でも減らす為に、不妊・去勢手術の助成金を出して手術の普及に努めております。手術の総助成頭数の内訳は以下の通りです。

	メス	オス
支部合計助成頭数	807	627
本部合計助成頭数*	1,076	872
本部・支部合計助成頭数	1,883	1,499
総計	3,382	

\*JAWSのら猫キャンペーン、いぬねこ不妊去勢手術推進キャンペーンなどの不妊去勢活動補助等を含む

## 譲渡動物の紹介

### トイプードルの「ちゃちゃまる」くん

ちゃちゃまるくんは元飼い主様のご事情により新しい飼い主さんを募集しておりました。今は新しいお家で優しいご家族の皆様にもまれて幸せいっぱいに過ごしています！

#### 《お母さんからの幸せ報告》

ちゃちゃまるくんは甘えん坊でいつもベッタリしてきます。

毎朝、近くの公園に行ってシロツメクサの中を走り回ります。

家に帰ったら少し食べてお昼寝。起きたらベランダで遊んで軽く食べてお昼寝。散歩。夜は娘と一緒に寝ています。

先住犬のマロちゃんが虹の橋を渡ってしまったけど、その悲しさ寂しさを全て埋めてくれています。



↑お母さんと一緒！  
甘えん坊さん



↑ふかふかのソファでスヤスヤ…

## 第63回動物愛護の作文コンテスト

半世紀以上に亘って継続されてきた作文コンテストは、当年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、コンパクトな形で実施されました。全国の小・中学生から1,251編の作品応募があり、多数の力作、秀作を前に、苦勞の審査の結果、環境大臣賞は小学生の部では園田絢奈さん(神奈川県函嶺白百合学園小学校4年)の「豚が教えてくれたこと」が、中学生の部では、堀内津麦さん(宮城県仙台市立仙台青陵中等教育学校1年)の「兄の三味線」が選ばれました。この他には特別賞の「昭和会館賞」や「JAWS UK賞」、新設された「岡本和真ハピアニ賞」を含めて、小・中学生各10名、計20名が受賞しました。表彰式は11月20日に常陸宮妃殿下御臨席の下、新型コロナウイルス感染予防措置を徹底して、東京プリンスホテルで開催されました。受賞者には、賞状とともに常陸宮妃殿下からの御下賜品が授与され、皆さんからは陰鬱なコロナ禍の状況において、気分が一新し励みになったとのお声をいただきました。

## 岡本和真HAPPY ANIMALプロジェクト

11月23日に「ジャイアンツ・ファンフェスタ2022supported by DAZN」が行われました。コロナ禍の影響が続いていましたが、今回は3年ぶりに東京ドームで開催されました。球場ではグラウンドの舞台にいる選手を取り巻くようにドーム全体をファンの皆さんが埋め尽くし、昨年よりさらにパワーアップしたイベントが目白押しで行われていました。普段の緊張感のある選手たちとは一味違った一面が見られました。その中で、球団や選手が取り組んだ支援活動の寄付金贈呈が行われ、グラウンド上では、寄付金額が書かれたプレートが球団・選手より各団体代表へ手渡されました。今シーズンの活躍により、岡本和真選手から82万円のご寄付をいただきました。また、会場では来シーズンの新キャプテンに岡本選手が就任することが原監督から発表され、岡本和真選手が率いる新しいチームの活躍に目が離せません。私たちも岡本選手の活躍に負けぬように、一頭でも多くの動物たちを救えるよう活動をしていきたいと思っております。皆さんも是非、応援よろしくお願いたします。

## 動物愛護週間中央行事

当年度の動物愛護週間中央行事は、「子どもも大人も一緒に考えよう、私たちと動物」のテーマの下、新型コロナウイルス感染症への対応により、屋外行事は10月1日(土)にステージイベントのみを上野恩賜公園で開催、また屋内行事は9月24日(土)に台東区生涯学習センターミレニアムホールでオンライン開催による「2022どうぶつ愛護オンラインシンポジウム」として実施しました。専門家の講演やパネルディスカッションがライブ配信され、多くの方々にご視聴いただきました。

## JAWS REPORT

当年度は91号、92号と2回発行し、協会の実施活動全般に加え、多頭飼育崩壊問題や動物園視察報告などを掲載しました。レポートは会員の皆様をはじめ、自治体や獣医師会、各種関係団体様などにお届けしました。



## 譲渡会の開催

2022年は、本部としては初めて譲渡会を開催いたしました。本部では保護施設が無いため、譲渡活動はHP上に新しい飼い主を探している動物たちの情報を掲載し、里親希望者の審査やトライアル等の里親探しをスタッフがお手伝いさせていただいております。しかし、高齢の動物や病気を持っている子などはそこだけが注目されてしまい、なかなか譲渡に繋げることができません。長い間新しい飼い主さんを待っている動物たちのアピールのために、本部での開催に至りました。

## 【1回目開催 会場：かもめカフェ】

1回目は6月25日に、大崎駅近辺の「かもめカフェ」で小規模の譲渡会を開催いたしました。1回目に参加した動物は、犬1頭、猫3頭の合計4頭で、どの個体も元気よく来場者の皆様とのふれあいを楽しんでいました。新型コロナウイルス感染防止対策のために事前予約制といたしました。当日まで予約は0という状況でした。しかし、ネット上では3,000件以上の反響があり、情報拡散という形でたくさんの方にご協力いただきました。また、市民の方の保護動物への関心が高いことも再認識できたため、感染拡大が落ち着いてからの譲渡会開催も期待できました。予約が無かったにもかかわらず、当日は数名の来場者があり一対一で動物相談をしたり、保護犬や保護猫たちとゆっくりと触れ合っただけでした。本部での初回の譲渡会としては、大きな問題も無く、無事に開催をすることができました。

## 【2回目開催 会場：ヤマザキ動物専門学校】

2回目は2023年1月21日に渋谷区にある「ヤマザキ動物専門学校内レインボーホール」で、栃木支部・本部協同開催の犬猫譲渡会を行いました。会場となったレインボーホールは、2022年1月に竣工したばかりの新しい施設で、広くて綺麗で動物に優しい設備が整った素敵なホールをお借りすることができました。

当日は犬猫あわせて17頭が参加いたしました。中には高齢の子や脚が欠損、腎臓の問題など、譲渡に繋がりにくい子たちもいましたが、開催中はスタッフが健康状態を確認しながら、頑張っただけで参加してくれました。怖がってしまう子に対しては、保護をしているスタッフがその子のアピールポイントを、来場者の方に一生懸命説明しておりました。当日は宇都宮大学の猫ボランティアサークルの学生さんや、栃木支部の動物達のお世話を手伝っていただいているボランティアさんなど多くの方にご協力をいただきました。

また、当日は読売巨人軍の岡本和真選手にもご来場いただき、JAWSの活動見学をしていただきました。岡本和真選手は読売巨人軍の社会貢献プロジェクト「Ghands」の一環で、「岡本和真HAPPY ANIMALプロジェクト」に参加していただいております。公式戦1打点ごとに1万円を動物福祉活動のためにご寄付をいただいております。

譲渡会会場を見学した岡本選手は、保護犬や保護猫を優しく抱っこしながら、「可愛いね」と動物達に優しい言葉をたくさんかけてくださいました。岡本選手が以前飼われていたわんちゃんと似ている保護犬を見つ

けると、怖がらせないようにそっと近づいてくださいました。保護犬や保護猫たちがどのような経緯で保護をされてここののか等にも興味深く耳を傾けてくださり、会場全体はとても和やかな雰囲気になりました。譲渡会での様子は、後日読売巨人軍のBS特番でも紹介され、新キャプテンの優しさ溢れる一面に多くの反響をいただきました。

とても寒い日ではありましたが、感染防止対策はしながらも多くの方々にご来場いただき、賑やかな譲渡会となりました。ご協力いただきました全ての方々に感謝申し上げます。



↑保護犬を抱っこする岡本選手  
(報知新聞社写真部提供)



↑たくさん抱っこしてもらいました

## セミナー・研修会・講演・学会・取材等

### 1. セミナー

#### 【JAWS動物福祉市民講座】

当年度も10講座全てをオンライン配信で行いました。実開催を希望する声もありますが、遠方にお住まいの方々からオンライン配信継続を求める声が多いため、引き続きオンライン配信による開催を予定しております。配信期間は2週間で、好きな時間に好きなだけ視聴ができるシステムです。受講料が無料であることや、自分の生活に合わせて受講がしやすいため、ネット上でも多くの反響をいただいております。当年度は

合わせて約1500名の方にご参加いただきました。さらに新たな取り組みとして、講師の先生に質問ができるようになりました。動画の視聴後に、専用のフォームで質問を投稿いただき、後日先生方からいただきました回答をHPに公開しております。

### **【RSPCAセミナー】**

#### **◀RSPCA基本セミナー▶**

3年ぶりにRSPCA国際部長のポール先生が来日し、会場とオンラインのハイブリッド開催でRSPCAセミナーを2日間開催しました。会場では、例年のように参加者同士のグループディスカッションも行われました。

#### **◀RSPCA動物福祉の基本セミナー▶**

2月にはオンラインではなく実開催のみで動物福祉の基本セミナーを開催いたしました。講師にはRSPCA国際部長のポール先生と教育部門で長く勤められていたデイビッド先生を招聘し、動物福祉の基本について講義していただきました。参加者は、獣医療関係者のみならず多くの一般の方にもご参加いただきました。

#### **◀RSPCA生命尊重教育セミナー▶**

初めて開催する「生命尊重教育セミナー」は、教育者や指導者向けの内容を2日間にわたって開催しました。こども達に「命の大切さ」を学ばせるにはどうしたら良いのか、生き物や自然とのふれあいを思考や学習に繋げるには、教育者がどのように導くべきかなど、実際の日本の学習指導要領と比較しながら、基礎から応用まで教育を中心としたお話をしていただきました。講師にはRSPCAの教育部門所属で、教師、生物学者でもあるデイビッド先生が中心となり講義されました。デイビッド先生は生命尊重教育カリキュラム作成や人材育成をされており、各国を訪問して動物福祉を踏まえた生命尊重教育の普及活動を行っています。

#### **【シェルター・メディスン・セミナー】**

当年度もマースジャパンリミテッド様とバーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン株式会社様のご協賛で、第1回と第2回のシェルター・メディスン・セミナーを開催いたしました。今回は新型コロナウイルスによる感染対策をしながら、ハイブリッド開催することができました。動画配信では対応することが難しかった先生への質疑応答等も、実開催により可能になり、多くの意見が飛び交うとても活気のあるセミナーが戻ってきました。

#### **【法獣医学研修会 基礎編】**

獣医師・行政職員・獣医学生等を対象に、専門職として動物虐待を見過ごさないための知見を身につけ

ることを目的とした研修会です。当年度も全てオンラインで開催いたしました。今回は3名の専門家の先生による、虐待の概論から虐待の的確な判断に欠かせない証拠収集や立証の実例などの9講座を配信し、約1500回の再生がありました。動物虐待は人と動物の福祉の問題だけではなく、残虐な犯罪への発展や公衆衛生問題など、地域社会への影響も大きいため、今後も獣医療関係者や行政職員にとって重要な学問であり、虐待等に対応できる人材育成が期待されております。

## **2. 学会幹事としての活動**

日本法獣医学学会と日本動物福祉学会に当協会職員が幹事及び理事として参加しております。日本法獣医学学会では、9月と11月にシンポジウムを、3月には第2回学術集会を開催しました。日本動物福祉学会では、12月に「産業動物の福祉」をテーマに第3回シンポジウムを開催しました。

## **3. 講演**

ヤマザキ動物看護大学大学院と三鷹ネットワーク大学で講演しました。

## **4. 取材**

当年度もテレビ局、新聞社、雑誌社などのメディアからの取材の他、小学生からのインタビューを受けました。

## **5. 省庁及び各自治体における 審議会・委員会等**

本部職員が環境省動物愛護部会臨時委員、「農林水産省アニマルウェルフェアに関する意見交換会」の委員として、また、東京都、千葉市と仙台市の「動物に係わる会議」の委員として会議に出席いたしました。また、当協会顧問が「群馬県ペットとの共生推進に関する有識者会議」の委員として会議に出席しております。その他、当協会会員で、在住地の自治体から愛護推進員の委託を受け、地域の動物福祉推進のために活動されている方もいます。

## 常陸宮妃華子殿下の ご翻訳絵本とデザインカード

妃殿下が翻訳された「しょうぼう犬ドット」と妃殿下お手製のデザインカードをバザー等でお求めいただけます。「ハニーが盲導犬になるまで」に続き「ぼくじゃないよジェイクだよ」もバザーで大変人気があり、完売となりました。妃殿下のご厚意で、売上と印税は全て当協会へご寄付いただいております。

## 各種オリジナルグッズの販売等

定番のオリジナルロゴ入りTシャツ、ポロシャツの他に傘、ロール付箋なども大変好評いただいております。長らく新型コロナウイルスの影響で、バザー開催

の取止めが続きましたが、10月頃から少しずつ各イベントでバザーの出店が叶い、チャリティグッズを販売する機会が増えてきましたので、売上・募金額を増やして行きたいと考えております。

## 会費・ご寄付の支払いが多様化されました

① 郵便局・コンビニ	従来の振込用紙で支払
② WEB決済	PC・スマホ・タブレット等のWEB上でクレジットカード・ATM・コンビニ・ネットバンクでの支払
③ □座振替	会費及び定期的なご寄付を□座振替にて支払

## 寄付金

当協会の動物福祉活動の趣旨をご理解、ご賛同いただき、当年度も多くの団体、会員をはじめとする個人の皆様からご寄付、ご遺贈を頂戴しました。

### 大口ご寄付者(敬称略) (22/4~23/3)

単位：円

氏名	金額
樋渡 佐登子 【ご遺贈】	32,829,039
渡辺 弘美 【ご遺贈】	5,182,845
阿久津 克子 【ご遺贈】	3,300,000
MARCUS EVERARD	3,000,000
公益社団法人 アニマル・ドネーション	1,017,381
久次 恭子	1,000,000
稲田 伎子 【ご遺贈】	1,000,000
バックアーズ・ファンデーション	1,000,000
岡本 和真	820,000
公益財団法人 日本いけばな芸術協会	800,000
北澤 いちえ	750,000
株式会社 読売巨人軍	614,105
堀越 庸夫	500,000
株式会社 どうぶつでんき	352,200
匿名	350,000
ロイヤルリゾート株式会社	302,209

氏名	金額
土田 謙一(みどりとくまちゃん)	300,000
ロイヤルハウジング販売株式会社	294,927
津 由利子	250,000
村上 寿子	210,000
あさこ動物病院	200,000
渡辺 郁与	200,000
小花塗装株式会社	200,000
ユニバーサルミュージック合同会社 (Billie Eilish)	200,000
ロイヤルハウジング株式会社	160,890
株式会社 ユアサイド	120,000
松平 寿美枝	100,000
一般財団法人 兵藤哲夫アニマル基金	100,000
株式会社 ティナータイム	100,000
英 哲 【ご遺贈】	100,000
高橋 慎志	100,000

### 毎月のご寄付者(敬称略) (22/4~23/3)

相川絵理子 石曾根泰久 金釘早苗 黒木敬子 下泉朋子 高橋慧 竹内靖子 西岡千秋 張替邦夫 丸山明美  
脇田昌実 ワタベミヅキ 五十音順

## 税制優遇措置について

公益社団法人日本動物福祉協会へのご寄付は、税制優遇措置の対象となっています。所得税、個人住民税、相続税について、それぞれに定められている条件を満たすことで、優遇措置を受けられます。

なお、優遇措置を受けるためには申告が必要です。

※住民税における寄付金控除は、各都道府県および市町村の条例で指定されている場合のみ適用されますので、お住まいの都道府県および市町村にお問い合わせください。

※詳しくは最寄りの税務署や税理士などにお問い合わせください。

	税額控除(H23 改正追加)	所得税(従来型)
控除額	<b>寄付金額－2,000円</b> ※対象となる寄付金額の上限は、総所得金額の40%相当額	<b>(寄付金額－2,000円) × 40%</b> ※対象となる寄付金額の上限は、総所得金額の40%相当額 ※控除税額の上限は、所得税額の25%相当額
～個人住民税について～		
控除額	○都道府県が条例指定 (寄付金額－2,000円) × 4% ○市区町村が条例指定 (寄付金額－2,000円) × 6% ※重複指定であれば、(寄付金額－2,000円) × 10%	
～相続税について～		
非課税措置	遺贈または相続財産の寄付は相続財産から除外(租税特別措置法70条) ※条件：寄付を受ける公益法人がその財産を2年以内に公益目的事業に使う事 (使わなかったり、公益認定が取り消された場合は改めて相続財産に加算)	

## Ⅳ 会員募集活動

新会員の募集

- ・当年度は、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の影響もあり、自然退会者が増加し、3月末の個人会員は2,078名と大幅に減少いたしました。引き続き会員増強の努力をしておりますが、皆様におかれましても、身近に動物福祉に対する理解者がいらっしゃいましたら、是非ともご入会をお奨め下さい。宜しく願いいたします。
- 2022年度末(令和5年3月31日)の各会員数は下表のとおりです。

名誉会員	1名	賛助会員	1,748名
法人会員	26社	青少年会員	15名
終身会員	131名	合計	2,104名
維持会員	183名	(内、個人会員)	(2,078名)

\*ご住所を変更された方は、必ず、事務局へご一報くださいますようお願い致します。

## Ⅴ 事務局関係

定時会員総会の開催

### 定時会員総会

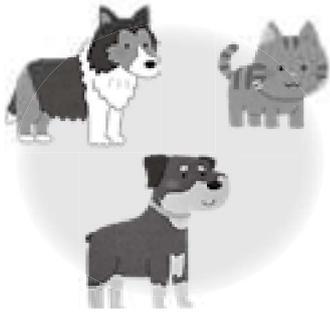
- ・2023年6月17日に、2022年度定時会員総会が東五反田の「スタンダード会議室」において、午後1時半から開催されました。第1号議案「2022年度計算書類承認の件」が上程され可決、承認されました。続いて「2022年度事業報告」「2023年度事業計画」「2023年度予算」が報告され、午後2時に閉会しました。

## Ⅵ 各支部の活動報告

新しい飼い主探し／不妊手術助成活動等

**JAWS**  
WE LOVE YOU

- 現在5支部が活発に活動しています。  
尚、相模支部は、会員や業務を横浜支部へ移管する形で廃止となりました。
- 姉妹団体であるJAWS英国もこのような各支部の活動に注目し、高く評価すると同時に積極的な協力、支援を行っている。
- 5つの支部はそれぞれの現場でそれぞれの固有の問題、課題に向かいながら、飼育管理相談、新しい飼い主探し、不妊・去勢手術の助成や多頭飼育崩壊問題の解決に向け努力をしていますので、その様子をご報告いたします。



南大阪支部  
支部長 山移千鶴



長野支部  
支部長 徳間壽美子



栃木支部  
支部長 川崎亜希子

JAWS支部  
ネットワーク



新東京支部  
支部長 井上留美



横浜支部  
支部長 家入庄一郎

自治体からの多頭飼育問題のご相談や協力依頼

社会を賑わす8050家庭(高齢者の親と引きこもりの子)の問題や高齢化社会の弊害に起因して、動物の多頭飼育に係わる相談件数が増えています。多頭飼育に関しては環境省の「多頭飼育対策ガイドライン」ができたおかげで、一度案件が動き始めると、官民協働ができるようになってきました。

多頭飼育現場においては、認知症や精神疾患などによるゆがみで本人は正常な判断ができないことが多く、動物の福祉の問題にとどまらず、飼い主を含む周辺の人への健康被害、公衆衛生上の問題が起きていることもあります。多頭飼育問題は、早期発見・早期対応ができれば、動物だけでなく飼い主のセルフネグレクト防止にもなり、公衆衛生上の問題も起きにくく、社会的損失も最小限に抑えることが可能です。

しかし、多頭飼育問題は再発率が高いことが知られています。そのためにも法律に、飼育禁止命令や緊急保護などが盛り込まれることが必要だと考えています。今後とも多頭飼育の再発予防、早期発見・早期対応に向けて働きかけを進めていきたいと思っています。

団体譲渡

栃木県動物愛護指導センターの団体譲渡の登録団体として、殺処分前の犬や猫の譲渡に積極的に取り組んでおります。他の団体では対応が難しい怪我や病気で医療行為が必要な動物の団体譲渡を受けるなど頑張っており活動しています。獣医療費は、皆様からのご支援が非常に役立っております。医療ケアが済んだ動物たちは、新しい飼い主さんのもとで幸せになっている動物も多いため、ペットをほしいと思っただけならず、保護犬や保護猫を迎える選択肢が広がるよう願っております。

図書館での譲渡会

当年度も県内の図書館で譲渡会が開催されました。館内では動物に関する本が特集され、保護された動物を見ていただくだけでなく、どこからどういった経緯で保護されたのかも含め、動物にかかわる問題に関心を持っていただきました。地元大学生もお手伝いしていただき、啓発も大成功でした。

地域猫対策

皆様のおかげで不妊手術の助成事業を行っておりますが、栃木県内でも徐々に地域猫対策という言葉が公になってきた印象です。今後も過剰繁殖を防ぎ、余剰動物を作らせないために、助成金を役立てたいと思います。

宇都宮市猫連続不審死事件

おそらく毒物を使用したと思われる猫の連続不審死事件が宇都宮市内で起きました。現場の自治会、宇都宮市保健所、警察とも連携して動いており、警察が現在毒物の特定と、犯人を捕まえるべく捜査しております。これ以上の犠牲を増やさないために、我々もすべての猫を現場から引き揚げて保護し、猫に必要な検査

を行い、得られた情報を警察に提供しています。

クリスマスやお正月も返上して事件に対応し、治療については毎日動物病院へ通院し、元旦も先生が病院を開けて対応していただくなど、我々だけではなく、動物病院の先生方、スタッフ挙げての総力戦でした。重症だった猫も幸い回復したものの、腎機能に若干障害が残った猫もいます。ご理解のある方のご家庭にご縁があればと願っております。事件の真相解明のための検査や治療などの獣医療費を賄うことができたのは、ご寄付いただいた皆様のお陰と感謝しています。

多頭飼育問題、不妊手術への助成金、団体譲渡や日々の保護管理などもですが、助かった命の裏側には我々だけではなく、活動を支えてくださる皆様のお力添えがあってこそと、毎年活動報告を記すたびに再確認しております。かかわった動物たちが幸せになる姿を見るたびにこちらこそ幸せをいただいておりますので、活動を支えていただく皆様には感謝しかありません。本当にありがとうございます。



耳を怪我していましたが、すっかり元気に！



断脚手術を乗り越えて今は幸せに暮らしています



対応した多頭飼育崩壊現場

①不妊・去勢手術助成金支給頭数(犬・猫合計=111)

犬	オス	➡ 0	猫	オス	➡ 47
	メス	➡ 0		メス	➡ 64
	計	0		計	111

②犬・猫の新しい飼い主探し実績頭数(犬・猫合計=61)

犬	オス	➡ 2	猫	オス	➡ 23
	メス	➡ 0		メス	➡ 36
	計	2		計	59

(支部長 川崎亜希子)

## 新東京支部

Shin-Tokyo Branch

### 1. 繁殖業の廃業に伴う新しい飼い主探し

都内の第1種動物取扱業者(繁殖業)が、新型コロナウイルス感染の蔓延防止措置、行動制限や経済的な変化などにより、潤沢に犬の販売が伸びなかったことから、2年前に廃業となりました。

一方で、2019年に改正された動愛法第44条の虐待の定義に「狭い場所で多数の動物を飼養し衰弱させる」が加わったため、東京都はこの業者に対し刑事告発を行い、警視庁は家宅捜査して日本犬104匹を確認し、保護しました。

廃業の後では、多くの動物愛護団体(認可)が協力し、2年間かけて100頭に近い日本犬の新しい飼い主探しを実施し、成犬の譲渡を進めて参りました。

新東京支部としても情報を共有し、最終段階において柴犬1頭、甲斐犬1頭の譲渡に協力することができました。繁殖業者の世代交代を図る上でも、廃業を伴うことがあるため、関係者間でタスク・フォースとして取り組み、情報の共有や譲渡に向けた譲渡前講習・譲渡時講習も含めて協働しました。改めて動物福祉活動の横の繋がりの大切さを実感いたしました。

### 2. 高齢者逝去に伴う飼育継続不能犬の譲渡

高齢飼い主の逝去に伴い飼育継続不能となったW・コーギーの譲渡を実施しました。また、新型コロナウイルス感染症に罹患して飼い主ご夫妻が相次いで逝去され残された11歳のスコッチ・テリアですが、口腔内のトラブルと腫瘍疾患を持っているため難しい譲渡でしたが、両犬ともに飼育経験のある方が引き取ることになりました。



### ①不妊・去勢手術助成金支給頭数(犬・猫合計=0)

犬	オス → 0	猫	オス → 0
	メス → 0		メス → 0
	計 0		計 0

### ②犬・猫の新しい飼い主探し実績頭数(犬・猫合計=4)

犬	オス → 2	猫	オス → 0
	メス → 2		メス → 0
	計 4		計 0

(支部長 井上留美)

## 横浜支部

Yokohama Branch

今回は、相談者や行政とともに放置猫を救済した顛末報告です。行政職員の認識向上と現場に対応するノウハウ習得の必要性を切に感じました。

#### ・11月29日 Hさんから電話があった

11月25日に病院から「義弟が11月21日から入院している」と連絡を受け弟の家に行くと、ごみ屋敷の中に逃げ惑う猫が9頭いた。

9頭の猫のために妻とともに毎日、餌とトイレの世話と部屋の片づけに通っているが、義弟の家へ行くには、電車とバスを乗り継ぎ1時間半ほどかかり、妻は身体に障害があり今後毎日通うのは難しい。また医師から義弟の回復は見込めないと告げられている。

9頭の猫を引取りたいが自宅にも猫2頭がおり、妻の体のことを考えると9頭の猫を引き取ることは難しいため、行政(旭区生活衛生課)に相談したところ、日本動物福祉協会横浜支部を紹介された。

#### ・12月4日 副支部長とスタッフの2名で現地視察

現場のアパートに近づくときに悪臭が漂っていた。案内された部屋の中のゴミは撤去されていたが、部屋中に浸み込んだ悪臭で鼻水と涙が止まらないほど酷かった。猫は人馴れしておらず、私たちを見て逃げ惑っていた。Hさんは毎日餌とトイレの世話をするだけで触ったりすることはできないと言う。テーブルの下に潜り込んだ猫たちには、目やにや鼻水で顔が汚れている個体を何頭か確認できた。今後この猫たちをどうするのが一番良いか、Hさん夫妻と副支部長とスタッフの4名で話し合った。9頭のうち2頭はHさん宅で引取り、1頭は横浜支部が引取る、残り6頭は捕獲して横浜市愛護センターに受け入れてもらうことにした。

#### ・12月8日 Hさん捕獲失敗

Hさんが1頭を捕獲しようとしたが失敗した。Hさんから相談があり捕獲のやり方と手順や注意点等をアドバイスした。

#### ・12月9日 Hさんが1頭捕獲

#### ・12月10日 Hさんがもう1頭捕獲

#### ・12月12日 旭区生活衛生課に電話

保護先の決まっていない6頭の捕獲について相談する。担当職員から捕獲の方法や人数、装備等について相談を受けた。行政の職員で捕獲するつもりだが、難しい場合は同行してほしいと要望があり了承する。12月も半ばになり、暖房のない室内で生活する猫たちと、世話に通うHさん夫妻の

大きな負担を考え、できるだけ早急に対応して欲しいと要望した。

- ・12月13日 Hさん1頭捕獲  
捕獲した猫たちは動物病院に行き、避妊去勢手術と血液検査をした。この日捕獲した猫は子宮蓄膿症であることがわかり、避妊手術後しばらく入院した。
- ・12月15日 旭区生活衛生課職員が捕獲器を設置  
生活衛生課の担当職員が猫を捕獲器に慣らすため、現地宅に捕獲器6台を設置した。
- ・12月20日 6頭を捕獲  
行政の職員3名が現地宅へ行くとすでにHさんが2頭捕獲済だった。2頭は捕獲器で捕まえることができたが、残りの2頭が捕獲器に入らず、家中を必死で逃げまわるため少しずつ部屋の隅に追いやり捕獲したとのこと。捕獲した6頭はそのまま愛護センターへ収容された。

**【考察】**

相談を受けてからおおよそ3週間ですべての猫を保護することができた。

行政の「人慣れしていない猫の捕獲の認識(危険度等)の低さ」が相談時の会話から窺われた。行政の担当者が直接現場を確認することは非常に大切であり、机上の理論だけでなく、それぞれの現場に対応するノウハウを体験し習得して欲しい。

今回はその点非常に有意義であったと思う。今後も行政には積極的にこのような現場にも関わって欲しいと思う。



\*上段右の写真  
Hさんが部屋を片づけた後、残された猫が段ボールの中や机の下に身を寄せている。

\*上段左の写真  
寒さで毛が膨らんでいるが、身体は痩せてガリガリになっている。

\*下段の写真  
Hさん宅で保護した猫、すっかりくつろいでいます。

**②犬・猫の新しい飼い主探し実績頭数(犬・猫合計=25)**

犬	オス →	2	猫	オス →	7
	メス →	3		メス →	13
	計	5		計	20

(支部長 家入庄一郎)

**長野支部**

Nagano Branch

当年度も支部会員皆さん方の熱心な保護活動に支えられ、多くの不幸な動物達へ救いの手を差し伸べることができました。TNR活動も活発に推移し当支部の不妊・去勢手術助成金の年度予算は、前年度同様に年末を待たずして達成となりました。

さまざまな理由で不幸な境遇に追いやられている動物達の保護を推進していますが、犬の保護で最も印象深かったことは、ここ数年に亘り行政も立入指導をしながら飼養環境改善を説得しタイムリーに単頭保護を進めていた、ブリーダーからの多頭放棄に漕ぎつけたことでした。しかしながら同ブリーダーにはまだまだ多数の個体が取り残されていますので、それらの救出も来年度の大きな課題です。関連法規違反に近い飼養環境状況に置かれ、辛い苦しい思いを強いられている動物達がまだまだ大勢います。

一方、猫の保護では数件の多頭飼育崩壊の救済にあたりましたが、その現場は殆どがゴミ屋敷化し飼い主の生活すらままならないというような悲惨な状況で、猫問題は貧困と大きく関わっている印象を受けました。中にはライフラインが途絶えているケースもありました。そのような経済環境下では猫の不妊去勢手術或いは医療処置などができるわけがありません。これらの救済活動は行政との協働作業を進めましたが、20匹、30匹という大きな崩壊に至るまでには時間があるわけですから、まだまだ数匹の飼養の時点で行政が立ち入り指導を強化していけば(問題化以前に民間が立ち入るのは困難)、このような痛ましい事例を減らしていくことに繋がるのではないかと思います。

近年は動物福祉に向けての関心が高まり、進んで保護動物の譲渡を希望する飼い主も増えています。今後とも、動物福祉の基本である「5つの自由」への社会的意識が高まり、動物先進国に近づいていけますよう活動をしてまいります。



保護直後ヨークー



不妊手術後ヨークー

**①不妊・去勢手術助成金支給頭数(犬・猫・兎合計=69)**

犬	オス →	0	猫	オス →	29	兎	オス →	0
	メス →	1		メス →	38		メス →	1
	計	1		計	67		計	1



多頭飼崩壊現場

①不妊・去勢手術助成金支給頭数(犬・猫合計=400)

犬	オス → 0	猫	オス → 211
	メス → 5		メス → 184
	計 5		計 395

②犬・猫の新しい飼い主探し実績頭数(犬・猫合計=157)

犬	オス → 7	猫	オス → 42
	メス → 53		メス → 55
	計 60		計 97

(支部長 徳間壽美子)

## 南大阪支部

Minami-Osaka Branch

### 「殺処分ゼロ」の裏側

動物に目を向けると、多頭飼育崩壊、虐待、高齢者問とペット、飼育放棄など懸案事項は山積みで何年たっても改善するための有効な手立てが講じられないままになっている。命を命とも思わない蛮行に、国はもっと真摯に向き合ってほしい。

長年、私の心の奥底に埋もれ火のようにくすぶっている言葉がある。「殺処分ゼロ」それである。

大切に保存している2019年5月28日付朝日新聞には、「『犬猫殺処分』数えられない死」「譲渡不適切」は除外」とある。保健所や管理センターに収容中、病気やケガなどで死んだ場合は処分に入らないのは理解できる。その他に「数えられない死」があることをこの記事で初めて知った。それは何なのか?記事の一部を引く。

「2013年施行の改正動物愛護法で都道府県など自治体は『殺処分をなくすことを目指す』という条文が盛り込まれた。環境省は、譲渡することが適切でない『譲渡不適切』と判断したものと、収容中に『傷病死』したものを、試行的に分類して集計するように自治体に求めてきた」「しかし、譲渡不適切と判断する『判断基準やガイドラインを策定している』と答えたのは、全国121自治体の中で73、策定していない自治体は34あった」「18年度に殺処分ゼロを達成したと発表した東京都の場合、譲渡不適切と分類した犬猫146匹を殺処分している。収容中に傷病死した犬猫も211匹いた」。東京都はガイドラインをもっていない。

今や、目的達成のための抜け道化しているように思われてならない。

譲渡されなかった「残りもの」は「特別枠」に入れてしまおうという、命を命とも思わない判断がまかり通っていることに人間のエゴと恐ろしさを覚える。人間の要望に合わないものは命ではないのか。あまりにも傲慢、そして神を冒瀆する行為である。「殺処分ゼロ」という耳ざわりのいい言葉の裏には人間の醜さが渦巻いているようだ。ちなみに大阪府と大阪市は共に殺処分数をあげている。

### 参加イベント・会議

- ①中之島まつり 2022.5.3~5
- ②堺市動物愛護フェア 2022.9.23  
於堺市動物指導センター
- ③大阪府市合同  
動物愛護推進員研修会 2023.2.8
- ④大阪府動物愛護推進協議会 2023.3.16
- ⑤大阪市動物愛護推進会議 2023.3.30



マイクロチップ読取体験&おやめりえコーナー(堺市動物愛護フェア) つ配布(堺市動物愛護フェア)



イベントにご来場いただいたわんちゃん

①不妊・去勢手術助成金支給頭数(犬・猫合計=854)

犬	オス → 43	猫	オス → 297
	メス → 88		メス → 426
	計 131		計 723

②犬・猫の新しい飼い主探し実績頭数(犬・猫合計=290)

犬	オス → 38	猫	オス → 59
	メス → 124		メス → 69
	計 162		計 128

(支部長 山移千鶴)

単位：千円

1.財産の状況	令和4年度	令和3年度
現預金	28,608	16,755
貯蔵品	967	697
その他流動資産	46	4,012
固定資産	227,811	224,247
内特定資産	214,724	210,359
内その他	13,087	13,887
資産合計	257,433	245,711
負債合計	14,371	10,738
正味財産	243,061	234,973

- ・当年度末の正味財産は809万円増加し、2億4,306万円となりました。
- ・現預金は1,185万円増加しました。
- ・特定資産は、動物救護基金を1,000万円取崩し、当年度末残高2,500万円、捨て犬・捨て猫防止基金は1,500万円取崩し、当年度末残高1,500万円となりました。特定資産のうち1億6,715万円は指定正味財産(特定有価証券)で、3,093万円増加しました。
- ・特定資産の動物関係基金および指定正味財産は、令和5年度(2023年度)以降の動物福祉事業増強のために使用する計画になっています。

2.収支の状況	令和4年度	令和3年度
前期繰越額	234,973	206,246
会費収入	32,866	31,554
寄付金収入	59,579	75,184
募金収入	2,735	3,031
その他収入	7,607	5,980
当期収入合計	102,787	115,748
事業費	74,802	69,428
一般経費	28,542	28,187
事業経費	46,260	41,241
管理費	16,973	14,661
募金等関連経費	2,924	2,933
当期支出合計	94,699	87,021
次期繰越額	243,061	234,973

- ・当期収入全体では1,296万円減収となりました。
- ・うち会費収入は前年度比131万円増加しました。
- ・また寄付金収入(一般寄付、特定寄付合計)は、1,561万円の減少となりました。
- ・当期支出全体では、768万円増加しました。
- ・事業費は、動物救護費が323万円減少、いぬねこ不妊・去勢手術助成金は36万円減少しましたが、広報啓発費は積極的なセミナー開催、調査活動等で860万円増加しました。
- ・当期収支は809万円の黒字となり、次期繰越額は2億4,306万円となりました。

### 3.令和5年(2023年)度予算

単位：千円

前期繰越額	243,061
会費収入	33,000
寄付金収入	42,650
募金収入	5,500
その他収入	8,850
当期収入合計	90,000
動物福祉事業費	100,000
一般経費	29,500
事業経費	70,500
管理費	17,000
募金等関連経費	13,000
当期支出合計	130,000
次期繰越額	203,061

- ・令和5年度(2023年度)予算は、寄付金の減少が予想されますが、動物救護、不妊・去勢手術助成金の動物福祉事業及び各種セミナー開催や作文コンテスト等の広報啓発事業の諸施策に重点を置き、4,000万円の赤字を予想しています。
- ・引き続き事業基盤の強化・拡充のため、会員増強や寄付収入の増加を図るとともに、動物福祉事業の強化を図って参ります。

# ひとつでも多くの命を救うために。

## ～協会の主な活動～

### ◎動物関連の法改正などの周知に努めています。

令和3年6月に施行となった「改正動物愛護管理法」を広く皆様に知っていただくと共に、まだ残されている課題の解決のために、関連法の整備を目指しています。

### ◎緊急災害時の動物救援活動を行っています。

噴火や地震、津波などの大規模災害の際に、被災した動物たちの救援活動を国、地方自治体、その他の関連団体と協力して実施しています。

### ◎不妊・去勢手術の普及を推進しています。

不幸な捨て犬・捨て猫を増やさない根本的な対策は不妊・去勢手術です。各支部とも協力して、手術費を助成するキャンペーンや、猫の捕獲器の貸し出しを行っています。

### ◎正しい飼育管理への改善指導をしています。

怠慢であれ、故意であれ、劣悪な飼育環境は虐待になります。一般家庭はもちろん、動物取扱業や動物園、動物収容施設などの実態を調査し、改善を要望しています。

### ◎新しい飼い主探しのお手伝いをしています。

飼い主に手放された動物たちに、愛情と正しい知識を持って迎えてくれる、温かな家庭を見つける努力を続けています。

### ◎動物闘争の全面禁止を目指しています。

娯楽のために動物を闘わせるのは凄惨な虐待です。こうした行為の全国的な禁止に向けて活動しています。

### ◎研修・セミナー・シンポジウムなどを開催しています。

内外の専門家によるセミナーや講演会、他団体と共催するシンポジウムなどを通して、動物福祉の理解と知識向上に努めています。

### ◎「動物愛護の作文コンテスト」を毎年実施しています。

全国の小・中学生を対象に、作文コンテストを60年超にわたり実施しています。表彰式には、名誉総裁常陸宮妃殿下がご臨席されます。

### ◎他の動物愛護団体とも協働しています。

「動物愛護週間中央行事実行委員会」「動物との共生を考える連絡会」「動物ID普及推進会議」等のメンバーとして、他団体と共に積極的に活動しています。

### ◎電話相談をお受けしています。

一般の方々からの、動物に対する様々な電話相談に対応しています。



生きるべき命を守るお力添えを、  
私たちはお待ちしております。

## 当協会ではサポーターを募集中です。

JAWSの動物福祉活動を、より多くの方々に理解し応援していただき、日本を「更に命あるものをつくしむ思いやりある国にしたい」そんな願いを込めて、日々の努力を重ねています。

私たちの活動にご賛同いただける方たちを、サポーターとしてお迎えし、動物福祉事業の輪を拡げ、ひとつでも多くの命を救っていきたく考えています。

◎私たちの活動資金はすべて、会員の方からの会費と、一般の方からのご寄付によってまかなわれております。

## 2022 Happy Face of the Year

たくさん  
ハッピーフェイスが  
増えますように！

お申し込み・お問い合わせは  
電話/FAXでお願い致します。

☎ 03-6455-7733  
FAX 03-6455-7730



協会ホームページ

～すべての生きものに尊厳を～ アルバート・シュヴァイツァー

公益社団法人 **日本動物福祉協会**

〒141-0022 東京都品川区東五反田2-6-5 フロインデ2階  
電話：03-6455-7733 FAX：03-6455-7730  
HP：https://www.jaws.or.jp